

読書活動だより.63

編集・発行 静岡県読書推進運動協議会

静岡市駿河区谷田53-1
静岡県立中央図書館内
TEL 054-262-1246



「読書の喜びを伝えよう」

静岡県読書推進運動協議会理事・沼津市立図書館長
保田 藤代

以前、「ジェーン・オースティンの読書会」という映画を見たことがあります。子どもの本についての読書会等は、県内各市町において開催されているようですが、大人のための読書会はあまり活発でないように感じていましたので、様々な年代の女性たちがオースティンの小説について議論しあう、この映画が大変新鮮に感じられました。

読書は本来、個としての活動ですが、その活動から得たものを他者と共有することで、共感や新たな発見などが生まれ、読書がさらに深まるのだと思います。

NHKの「週刊ブックレビュー」が好評だったのも、出演者各自の推薦本の合評により、読書という「知的な喜び」を共有できたからではないでしょうか。

また、昨年の静岡県図書館大会分科会の際、堺市立図書館から「ビブリオ・バトル」という新たな取り組みについて紹介がありました。「ビブリオ・バトル」とは、お気に入りの本を持ち寄って、その面白さについて5分程度でプレゼンテーションし合い、どの本が一番読みたく

なったかを参加者の多数決で決定する書評イベントで、様々な年代の方の参加があり好評を博しているとのことでした。

従来、図書館は読書活動推進のための講演会、講座、展示、子ども読書活動推進のための親子で参加するイベントなどを開催してきましたが、参加者にとってどうしても受け身になりがちです。新たな形としてビブリオ・バトルをはじめ、利用者が主体的に図書館や読書推進に関わっていけるように、たとえば参加者同士の朗読会、利用者がお気に入りの本を紹介できるコーナーの設置など様々な方法を探っていく必要があるのではないかと考えています。

こうした試みが、読書の喜びを幅広い年代の方と共有できるコミュニケーションの場としての図書館の活用につながるのではないのでしょうか。その際、企画・運営の面からも、市民に参加していただくことも考慮したらよいのではないかと思います。

今後も、様々な機会をとらえボランティアをはじめ各関係団体と連携しながら、読書の喜びを伝える活動に努めてまいります。

《内容紹介（もくじ）》

- ◎巻頭言「読書の喜びを伝えよう」
(静岡県読書推進運動協議会理事 保田藤代)..... 1
- ◎静岡県図書館大会・読書活動分科会報告..... 2
- ◎平成24年度 優良読書グループ紹介
- ★(社)読書推進運動協議会長賞(全国表彰)
富士宮市市民読書活動サポーター(富士宮市)..... 2
- ★静岡県読書推進運動協議会長賞(県表彰)
アンデルセン..... 3

- ぬまづ子どもの本を学ぶ会..... 3
- おはなし「海」の会..... 3
- ちいさなおなべの会..... 3
- 清流読書会..... 3
- ◎ふじのくに文化の丘フェスタ報告..... 4
- ◎静岡県読み聞かせネットワーク全体講演会報告... 4
- ◎推薦図書..... 4

静岡県図書館大会・読書活動分科会報告

平成24年10月29日(月)第20回静岡県図書館大会が行われました。読書推進運動協議会が担当する第5分科会は、昨年までは県内の読書グループにご協力をいただいて、より魅力的な読書会のあり方を探り、活動の更なる活性化を願ってきました。今年度からは読書グループのみならず、読書活動を行っている個人、団体等々に対象を広げ、読み手側に立った読書について考えていくこととし、分科会名を「読書活動」としました。

今回は、草谷桂子さんを講師にお迎えし「本のもつ力～絵本を通して知る ^{いま} 現在と ^{これから} 未来～」をテーマにお話いただきました。

草谷さんは、「絵本には、生きるために必要なこと、人権、いじめ、家庭、平和、女性、環境等、ありとあらゆるものが描かれている。絵本は時代を映す鏡である。」と言われ、特に新刊書は読書の傾向、子どもの置かれている立場、現在の世相などが分かり興味深いと、絵本の見方を示唆してくださいました。

3.11以降出版された本からは、ためらい、迷いながらも「歴史の証人」として、あるいは「過ちをくり返したくない」という強い思いで書かれていることが伝わってくると言います。また、虐待、いじめなど現代の様々な課題に役立てくれる数多くの本も出版され、「中にはとても切ない本もあるが、絵本には読んだ後、救いや希望がある。そのことが大事。」と、おっしゃいました。最後に「本を読むことは、想像し、羽ばたける翼と成長するための根っこをもらうこと。どんな環境にあっても本を読む喜びを知り、生きる力をもらえる図書館の力は大きい」と話されたことが強く心に残る分科会でした。



平成24年度 優良読書グループ紹介

(社)読書推進運動協議会長表彰(全国表彰)

【富士宮市市民読書サポーター(富士宮市)】

富士宮市市民読書サポーターは、市の「読書と読み聞かせ推進事業」の立ち上げに際して公募により集まったメンバーで、22名のサポーターが所属し今年で活動12年目となる団体です。富士宮市には平成2年に発足した「富士宮子どもと読書の会」というボランティア団体があり、そこで長く読み聞かせの経験を積んだメンバーが市民読書サポーターの中心となっています。

行政と協働体制を取り、子どもの本に関わる講座や講演会、子どもの本のセミナーを開催するとともに、小中学校・保育園・幼稚園・放課後児童クラブ等への語りやブックトーク、読み聞かせの実施、図書館や公民館、保健センターでの絵本や本の紹介、広報紙の発行などを行っています。

平成16年にサポーターが中心となって作成した本のリスト「おもしろい本みつけた」は、市内の読書ボランティアの本選びの指針となっており、写真入りで福音館月刊誌「母の友」に紹介されたこともあり、県内に止まらず全国からの問い合わせも多々あります。

また、定期的にサポーター研修会を実施し、読み聞かせやブックトークに用いる本の選び方や、話し方の技法について批評し検討しあうなど、現状に甘んじることなく日々努力をしています。

活動を始めてから12年たち、今後は、子どもたちに読み聞かせや本の紹介をするだけでなく、現役で子育てをしている若いお母さんたちに、読み聞かせの大切さや絵本の魅力を伝えていくことにさらに力をいれ、子どもたちが絵本や本を楽しみながら育っていけるよう手助けをしていきたいと考えています。

(代表 大塚 清美)



静岡県読書推進運動協議会長表彰(県表彰)

【アンデルセン(下田市)】

アンデルセンは、下田市立稲生沢小学校を活動の中心とし、市内の子育ての支援活動の場や図書館、特別支援学校などで子供たちに読み聞かせをしたり、いろいろな遊びと一緒に考えて遊んだりしています。現在活動メンバーは8名。その他に卒業した子供たちが参加して手伝ってくれています。

活動を通して地域の子供たちとのふれあいを深め、また本を読むことの大切さやおもしろさを知ってもらえるようにメンバーで日々話し合いをしています。子供たちの笑顔や笑い声、素直な意見はとても新鮮で、私たちがこれからも大切にしていきたいと思うのです。

8年目となり、多くの子供たちが街で会って「アンデルセンさん！」と声をかけてくれたり手を振ってくれたりします。これからも子供たちからたくさんのパワーをもらってがんばっていききたいと思います。

(代表 桑原 明子)



【ぬまづ子どもの本を学ぶ会(沼津市)】

会員は、学校・幼稚園・養護施設などで読み聞かせをしている人、図書館や地域でおはなし会を聞いている人等ですが、ただただ、絵本や児童書が好きな人、わが子や孫に読んでやりたいからという人も多いです。毎年登録更新をします。子どもにとって絵本とは？読書とは？良い本とは、といった基礎講座や作家・翻訳家・詩人・編集者などの講演会も開催しています。図書館事業への協力も大切にしています。夏休みの1カ月間、お薦めの絵本を会員が持ち寄り、図書館に展示する「夏休み企画展」の本の中から、読み聞かせをしたりお話を語ったりする、おはなし会も行います。夏休みの一日を子どもたちと図書館で過ごす、という「わくわく図書館」も楽しい行事です。大切にしていることは「学んだことは子どもたちにお返ししよう」ということです。

(代表 村上 慶子)



【おはなし「海」の会(静岡市)】

「赤ちゃんからお年寄りまで、素語りでおはなしを届けたい」そんな思いでおはなし「海」の会を立ち上げてから6年がたちました。現在メンバーは6名。清水図書館、清水特別支援学校、静岡市内の小学校3校、児童クラブ3校でお話会をもたせて頂いています。

お話会では、日本や外国の昔話や物語、絵本、詩、手袋人形、ことばあそびパネルシアターなど、メンバーの個性とチームワークで楽しい会になるよう心掛けています。そのために月2回の例会を持ち、勉強会プログラム作り、リハーサルを行います。

語りはおはなしを覚えるためにとても時間がかかります。でも、おはなしが大好きな仲間が、おはなしに支えられ、聞き手に支えられて頑張っています。聞き手の心に届く語り、語り手と聞き手が心のキャッチボールができるような、そんなお話会を目指しています。

(代表 山梨 久美)



【ちいさなおなべの会(磐田市)】

ちいさなおなべの会は、昭和59年に、浜松ストーリーテリングの会・昼の部としてグループの立ち上げがあり、メンバーを少しずつ増やしながら、現在に到っています。

掛川市、袋井市、磐田市、森町、浜松市、の幼稚園、小・中学校で、ストーリーテリングを中心にしたおはなし会をさせていただいています。会員10名、準会員6名で構成、毎月の練習で順番に語り、聞き、感想を述べ合うミーティングではプログラムの準備、反省、おはなしの関連書籍を読みます。また、講師の先生を招いての勉強会もしています。

子ども達が、楽しんで聞いてくれる様子に喜びを感じながら、おはなしを語っています。一昨年から、磐田市立中央図書館のおはなし会にも参加しています。今後も、経験を重ね、よいおはなしが届けられるように、みんなで楽しく活動していきたいと思っています。

(代表 藤原 なお美)



【清流読書会(浜松市)】

清流読書会は1981年に天竜公民館の設立を機に発足しました。

毎月一回一冊の本を読んで、感想を話しあい、他人の意見を聞くことにより本の広がりを感じています。そして毎回当番がテキストの読後記録をつけています。初めは子育て真最中で幼子を連れての参加から、今では親の介護や孫の子守に携わる人と会員は30代から60代となり、時代の流れの早さを痛感しています。

毎年3月の例会は、本年度の一年間のテキストを皆で決めます。図書館の「読書会用文庫リスト」約600冊の中から選び、リストにない本は図書館に購入依頼をします。この時が一番楽しく夢が膨らみます。読書会は32年間に342冊の本と出会い、読書記録は貴重な物となりました。

各々環境や年齢の違う中で、お互いの考え方や個性を尊重し、読書会を長く続けようという気持ちを大切にできたからだと思います。これからも一冊の本を媒介として楽しく読書の旅を続けて行きたいと思っています。

(代表 高井 ちか子)



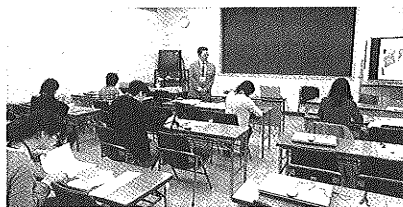
ふじのくに文化の丘フェスタ 『オトナの図書館員プチ体験講座』報告

平成24年11月11日(日)、静岡県立中央図書館において、「オトナの図書館員プチ体験講座」を行いました。

講座では、参加者が持参した本に図書館の本のようなビニールカバーを付ける体験の他、図書館の本の中から数冊選び、簡単なPOPや掲示を作成し、自分の“おすすめ本コーナー”を作る体験をしていただきました。

“おすすめ本コーナー”作りでは、まずは参加者に図書館での本の探し方のコツを講義し、その後各自でテーマを決めていただき、テーマに沿った本を探してもらいました。子育てに疲れたときに読む本、蕎麦に関する本、野外フェスに関する本、などなど、多様なテーマとなり、POPも力作揃いでした。参加者が選んだ本やPOPはその後1ヶ月ほど館内で展示し、多くの利用者にみていただきました。

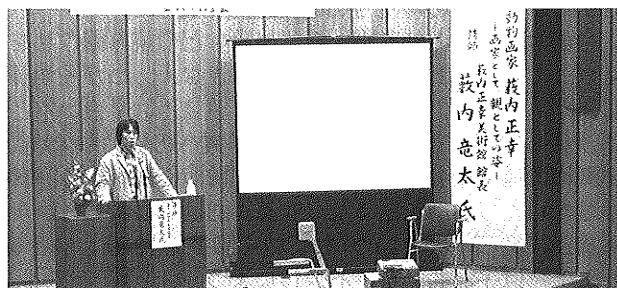
参加者アンケートからは「貴重な体験ができました」、「とても勉強になりました」、「また参加したいです」などのご意見をいただき、大変好評な講座となりました。今後も機会があれば開催したいと思います。



静岡県読み聞かせネットワーク 全体講演会報告

1. 藪内正幸氏原画展

平成24年11月1日(木)から12日(月)、静岡県立中央図書館において、動物画家藪内正幸氏の原画展を開催しました。温かい眼差しで描かれた動物や鳥の絵は素晴らしく、多くの方が感動して帰られました。期間中は延べ600人が来場されました。



2. 藪内竜太氏講演会

原画展開催中の11月3日(土)、13時半より県立中央図書館講堂において「動物画家 藪内正幸～画家として、親としての姿」をテーマに、藪内正幸美術館館長で氏の御子息でもある藪内竜太氏にご講演いただきました。

幼少の頃から動物を見つめ描き続けたこと、親の理解と素晴らしい方々との出会いがあり、生涯動物画家として図鑑や絵本など幅広い分野で活躍したこと等を話されました。当日は160人が聴講されました。

静岡県読書推進運動協議会推薦図書

☆☆☆シニア世代向け☆☆☆

- 『いい人生をつくるはじめての禅のこと』
金嶽宗信／著(あさ出版 2012.3)
- 『人間の基本』
曾野綾子／著(新潮新書 2012.3)
- 『すべては今日から』
児玉清／著(新潮社 2012.4)
- 『老いの覚悟』
下重暁子(海竜社 2011.12)
- 『五十歳でも老人、八十歳でも青年』
森村誠一／著(ベストセラーズ 2014.3)
- 『スパイス、爆薬、医薬品
ー世界を変えた17の化学物質』
ベニー・ルクーター他／著
(中央公論新社 2011.11)

☆☆☆ヤング世代向け☆☆☆

- 『置かれた場所で咲きなさい』
渡辺知子／著(幻冬舎 2012.4)
- 『上昇思考
幸せを感じるために大切なこと』
長友佑都／著(角川書店 2012.5)
- 『聞く力 心をひらく35のヒント』
阿川佐和子／著(文藝春秋 2012.1)
- 『奇跡のむらの物語』
辻英之／著(農山漁村文化協会 2011.11)
- 『それをお金で買いますか
市場主義の限界』
マイケル・サンデル(早川書房 2012.5)
- 『あさになったのでまどをあけますよ』
荒井良二／著(偕成社 2011.12)